

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

開催日：令和 8 年 8 月 21 日（金）

会 場：直江津学びの交流館 イベントホール

参加者：36 人

（参加者）

グラウンド・ゴルフの使用場所の許可に関する要望です。糸魚川市には公認の美山グラウンド・ゴルフ場があり、年に 10 回程度大会を行っています。その大会に上越市や妙高市から多数の愛好者が参加しています。妙高市では新井総合公園の隣に森林を整地し、2 年前に 12 ホール可能なグラウンド・ゴルフ場を整備し会員 80 名ほどが練習や大会を行っています。

一方、上越市の現状ですが、他市のように専用のグラウンド・ゴルフ場がないため、日頃の練習は公園や空き地で行っているほか、20 名ほどが妙高市のグラウンド・ゴルフ場に出かけて行っている状態です。よって、愛好者は、糸魚川市、三条市、津南町、魚沼市、新発田市などの大会に参加して腕を振って楽しんでいます。市老人クラブ主催のシニアグラウンド・ゴルフ大会は春・秋ともに各 120 名ほど参加していますが、参加していない潜在的な愛好者も多数いると確信しています。大潟区では 50～60 名がグラウンド・ゴルフをやっており、大潟区だけでグラウンド・ゴルフ大会をやっています。また、県の上越大会（上越市、糸魚川市、妙高市）はグラウンド・ゴルフ場のある糸魚川市と妙高市の持ち回りで運営している状況です。上越市にはグラウンド・ゴルフ場がないので、県の大会はできません。さらに、福祉交流プラザは 8 ホールほどしか取れない狭さで、雑草が生い茂っており、グラウンド・ゴルフができる状態ではありません。理想的には、例えば藤野野球場などを月曜日から金曜日にかけて常設でお借りできないでしょうか。藤野野球場の利用状況について市の関係者にお聞きしたところ、「平日の昼間はほぼ利用がなく、ナイターは週に 1、2 回程度で、月曜日と火曜日に集中しているため、水曜日から金曜日はグラウンド・ゴルフの常設も可能だと思います」とのことでした。本当は糸魚川市や妙高市のように新しいグラウンド・ゴルフ場を作っていただきたいのですが、今はそこまでは求めません。芝があって 50 メートル打てる場所の確保をお願いします。高齢者の健康維持・活性化や地域産業の発展に効果があります。市の方でもっと良い場所ややり方があれば教えてください。市として検討事項でないのなら、理由を教えてください。

（参加者）

糸魚川市の大会ではスポンサー提供があり、参加者に大変喜ばれています。上越市はどうかというと、趣味の教室やスポーツ施設は充実していると思いますが、グラウンド・ゴルフ場に関してはコアとなる場所がありません。私は妙高市に 9 年ほど通ってグラウンド・ゴルフをやっています。上越市に施設がないため、妙高市まで行っている状況です。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

については、上越市にも愛好者が楽しめる整備された場所の提供をぜひお願いしたいと思います。妙高市の素晴らしいグラウンド・ゴルフ場をぜひ市長にもご覧になっていただきたいと思っております。

（参加者）

基本的にグラウンド・ゴルフの大会は芝の上で行われています。各同好会や町内会で普段練習しているのは、公園や小学校のグラウンド、つまり土の上です。大会は同じ条件で行わないと競技に影響が出ます。先ほどの意見にあったように常設の芝のコースが必要です。現状、芝が一番整っているのは野球場です。上越市にはかなりの数の野球場があります。高田城址公園野球場や藤野野球場、少年野球場などです。野球場の芝ならちょうど2コース取れて、スペース的にも多くの人が楽しめますので、何とかお借りして、高齢者が元気になるよう使わせていただきたいと思います。

（参加者）

富山県朝日町の境鉱泉という温泉の周辺に素晴らしいグラウンド・ゴルフ場が設置されています。今日も仕事で行ったのですが、暑い中、高齢者が一生懸命プレーしていました。上越市にもああいう場所があったらいいと常々思っていました。

（市長）

グラウンド・ゴルフは、特に高齢者の方が生き生きと、生活を楽しんでいくためのひとつの契機として大事だと思います。市としては福祉交流プラザ南側の広場を整備してありますが、ご意見にありました草刈りなどに一層取り組み、利便性を高めるよう努力をしたいと思います。

グラウンド・ゴルフ場はもちろん大事ですが、水泳、野球、サッカー、テニス、ソフトボールなど、いろいろなスポーツ団体から整備の要望をいただいております。もちろん全部対応できればよいのですが、緊急性や必要性など、教育委員会を中心に総合的に検討しております。そのような基準や財政状況等を勘案しながら進めていきたいと思っております。

なお、野球場と陸上競技場の使用については問題ありません。通常の使用申請をいただければ利用できます。

（参加者）

上越市には観光資源が数多くあり、どれをとっても事業化できると思います。市長として特に力を入れたい事業は何でしょうか。また、食の魅力を発信して、上越市ならではのおもてなしの取組を進めるとのことですが、どのような食に力を入れればよいとお考えでしょうか。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

（参加者）

観光資源はたくさんあると思います。私が思っているのは、海と佐渡汽船の利用です。佐渡汽船は小木直江津航路が復活しましたが、1日に何回も往復していません。その空いている時間を活用して、夕方にお客さんを乗せてサンセットクルーズなどをして見たらどうでしょうか。

（参加者）

上越市にはお城が3つもあります。こんなに狭い範囲にお城がいくつもあるのは、他市と比べても珍しいのではないかと思います。本当に観光の目玉と言えるのは、豊かな歴史と高い価値を持つ上越市の歴史資源ではないかと思います。そこで今問題になっているのが福島城です。お城がなくなり、小学校がなくなり、人口が減るなどして、次に何がなくなるのか不安です。ここで止めないと福島城は失われるのではないかと非常に危惧しています。御城印は春日山城と高田城はあるのに、福島城がないのは残念ですし、観光の目玉にしていたきたいと思います。

（参加者）

私の知人が外国人を対象としたガイドをしています。直江津に住んでいますが、地元ではなく県外や新潟市などで活動しているようです。上越市周辺ではそういう需要が少ないのではないかと感じています。

また、一昨年に研修旅行に行き諏訪大社を見学した時にガイドをしてくれたのが茶店の人でした。観光ガイドを専門にやっている人ではなく、ガイドが終わったら自分のお店にお客さんを呼び込む形で、地元での消費につなげているようです。そういうやり方がとても上手だと感じました。

（参加者）

糸魚川市や妙高市、長野県などは通常の標識にもローマ字で表記されていますが、上越市はそれがありません。インバウンドの誘客のため、その辺を少し考えてほしいです。

また、NHK連続テレビ小説「風、薫る」の高田編では、名前こそ出ませんでした。岩の原ワインと笹寿司、飴、それからのっぺが出ていました。せっかくの機会ですから、ドラマで出ていた食をPRし、もっと有効に使っていただきたいと思います。

（市長）

最初のご質問で、特に何を売り出したいか、という問いがありました。冒頭の説明で申し

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

上げたとおり「Meet Japan in Joetsu」ということで“ここにある良いものすべて”という答えになると思います。食については、基本的には伝統的な料理ということになるでしょうか。例えば、高田の旧師団長官舎のレストランなど、おいしいフレンチやイタリアンのレストランも含めるべきだと思います。私たちは恵まれていて、いつもおいしい米や魚や野菜を食べているのでそれほど意識しないところもありますが、外から来られる方は何を食べてもおいしいとおっしゃいます。基本的にはそういう伝統的な、ここにある食を大切にしたいです。

海については冒頭の説明では触れませんでした。今年 6 月に直江津の屋台会館で越佐まぐろ祭がありました。あれは佐渡市と上越市の議員の皆さんが中心になって、それぞれで越佐小木直江津航路振興議員連盟を立ち上げて行った行事です。例えば、妙高市のリゾートから来てくれるお客さんに佐渡まで行ってほしい、ということであれば、直江津を中継地点としておいしいものを食べてもいいですし、そういう回遊ルートを作って直江津も活性化していけばいいと思います。サンセットクルーズの実施は難しいと感じます。小木直江津航路については赤字なので、更に市が財政的に支援するというのは正直難しいと思います。

船だけではなく、えちごトキめき鉄道も雪月花などいろいろやっておられます。先日は、直江津駅のホームでビアガーデンも実施するなど、いろいろなアイデアがあると思います。先日、地域独自の予算事業を活用して若者が「ROJIURA」というナイトマーケットを開催していました。屋台会館の広場で、先週の週末まで各週末にやられていたと聞きましたが、ああいうのはとてもいいと思います。

お城については全くおっしゃるとおりで、春日山城と福島城と高田城、こんなにお城があるところはないです。いろいろなルートを作るのが大事だと申し上げましたが、お城ルートという案もあると思います。福島城は若干不幸な状況でありますので、きちんとしたいと思います。お城関連で言えば、まさに、謙信公の春日山城も、鯨ヶ尾城や直峰城などいろいろな支城があります。そうしたルートをきちんと案内しないといけないと思います。

英語表記が足りないところは整備する必要があると思います。春日山について言えば、4 年後が謙信公生誕 500 年です。いろいろ考えているところですが、林泉寺や春日山神社駐車場のトイレは、今年度きれいにしたいと思っています。春日山駅からの案内表示もきちんと整備します。馬場広場の銅像付近は、一番眺めのいいところにトイレがあるなど、あまり魅力が感じられないので、春日山城をたくさん楽しんでいただけるように整備をしたいと思っています。

ガイドについては、高田のお花見などを案内しているガイドがおられます。それを商売につなげるアイデアも大事だと思います。諏訪大社の関連で言えば、春日山の裏の岩殿山の伝説は皆さんご存知かと思いますが、大国主命（おおくにぬしのみこと）と奴奈川姫（ぬなかわひめ）が結婚してそこで暮らし、そこで生まれた建御名方命（たけみなかたのみこと）が諏訪大社を始めたといわれています。歴史的な話も含めて、面白いストーリーを伝えればお客さんが来てくれると思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

また、「風、薫る」の中で出てきたものはきちんと進めていくべきだと思います。岩の原ワインの話が出ましたが、川上善兵衛をNHK連続テレビ小説の主人公にしてもらおうと、署名が進んでいます。郵便の父、前島密を大河ドラマの主人公にという方もいらっしゃいますので、動きがあれば市としてもサポートしていきたいと思います。

（参加者）

市長から冒頭に、上越市の最大の問題は人口減少で、人口の回復はなかなか難しい、その場合、生活の質をどう上げていくか、という話がありました。国がふるさと住民登録制度を作り始め、上越市も楽天グループと連携して取組を進めていると思うのですが、なかなかそれが市民に十分に伝わっていないと考えています。首都圏や全国の人たちと地方を結びつけて、関係人口をより高めていくという取組ですが、ふるさと納税と同様に、特典につられて来る人たちの、いわゆる関係人口まで引き上げるための担い手の活動の提案や募集、そこで実現できる参加者と地域がウィンウィンになるような取組をどう作るかが一番肝だと思います。そのプログラムの作り方は今どう進められているのか、市民がどう参加していくのでしょうか。私は上越名家の活動をしているのですが、手伝っていただける人や賛同して動かしていく人たちを広く集めるのは非常にハードルが高く、大きな輪につながりにくいです。そういうときに、市のふるさと住民登録制度やふるさと納税の寄附金などをうまく活用して、資金と担い手をマッチングさせていただきたいと思います。

（参加者）

市長からまちづくりの4つの視点ということでお話がありました。「産業いきいき」と「多様な学び」は、行政から主導してやっていただかないと、なかなか地域のコミュニティでは難しいだろうと思います。ただ、「みんなの笑顔」と「こどもと家族を真ん中に」に関してはまさに人口減少社会の中で、地域における多世代交流や地域住民の活力と一体感を醸成するための様々な事業を地域独自の予算事業などを活用して取り組んでいるのですが、悩みはやはり人材です。リーダーとなる人材や一緒に活動してくれる人材を集めるのが難しく、特定の人に負担が偏ってしまっています。その人たちは他の仕事も任されてしまい、その人が抜けると活動が空中分解する恐れがあります。こうした点はソフト面の課題だとは思いますが、行政からの支援や指導をいただければ大変ありがたいと思っております。

（参加者）

人材不足の問題については、頭数を揃えるという発想はやめて、今いる人が100パーセントの力を出してくれば街は活性化します。そういう考えに基づいて、第7次総合計画後期基本計画を作っていく必要があるのではないかと思います。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

もう一点は、市民の皆さんに市の課題を共有し、積極的に市政に参加するという気持ちを持ってもらえれば、それなりの人が集まってくると思います。今まではそういう動きがほとんどなく、市政が人任せになっている面もあります。自分ごととして考える人を増やす必要がありますし、そういう施策は積極的に進めていく必要があると思います。例えば各種計画や第 7 次総合計画などを市民にしっかり説明して、理解と協力者を得る取組が必要だと思いますので、検討をお願いします。また、市長が市民塾とおっしゃっているような、まちづくりを考える人材を育成するための研修も必要だと思います。民間が率先して行えばよいのですが、最初の火付け役は行政にお願いしたいと思います。

（参加者）

8 月上旬にリージョンプラザ上越で農業セミナーがありました。その中で、「91（きゅういち）農業」という単語が出てきました。10 割のうち 1 割くらいの空いた時間で農業を手伝うということです。そうした取組の中で、外部の人も取り込めるのではないのでしょうか。別に農業でなくても、漁業でもいいと思います。漁業については、長野などからボートを持ってきている人も多いので、半農・半漁半 X のような形で人を呼び寄せることもできたいいと考えています。

（参加者）

地域おこし協力隊をもっと積極的に活用したらいいと思います。長野県伊那市の地域おこし協力隊は市長が率先して導入し、3 年の任期が終わった後の定着率が 100 パーセントだそうです。上越市の定着率は 50 パーセント程度ですので、どこかに問題があるということです。定着率を高めることと、もっと積極的に全国からやる気のある人にも来てもらうことが必要だと思います。

（市長）

関係人口の増加については、今いろいろな NPO などが活動しています。例えば、三和区を中心に農泊に取り組んでいるところが 4 区ほどあります。先日拝見しましたが、地元で取れる食材を使い、田植えや稲刈りに参加していただき、関係人口を増やす取組をしています。吉川区ではパルシステム東京と非常に良い関係を築いています。そのようないろいろな活動をしているグループがあります。関係人口の拡大に関して、今どのような取組が行われているのか調べているところで、市としてそれをできるだけサポートしていきたいと思っています。農泊は体験型として観光面でも有効ですし、地元の生業がそのままビジネスになるという点も非常に良いと思います。

関係人口・移住に関しては、先ほど「91 農業」という話もありましたが、いわゆる二拠点

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

生活というものがあります。できれば完全に移住してもらえるのが一番ですが、例えば週に3日は上越市で仕事をし、きれいな景色を見ながらおいしいものを食べて生活し、残りは東京に戻るといった暮らし方をぜひ進めていきたいと考えています。それであれば、そんなに無理ではないかもしれません。拠点生活方式もうまく進められるといいと思っています。

そして、人材の話ですが、地域おこし協力隊や定住支援コーディネーターがさらに活躍できるように考えていきたいと思います。地域のイベントを行うときに人手や若い人が足りないという声をよく聞きます。これについては、例えば、事務局的な仕事を担ってもらう人に将来的に市から報酬を支払うような仕組みも必要ではないかと考えています。町内会についても同様で、高齢化が進んでおりますし、事務的な作業を担う人が必要です。当然いろいろな省エネをしなければならないと思います。回覧板など、まさにデジタルでやってもいいのかもしれない。それと合わせて、いろいろな活動を行う時の事務的な体制の強化についても考えていきたいと思っています。

市のいろいろな課題について、ちゃんと市民に知ってもらうべきだ、というご意見はまさにそのとおりだと思います。パブリックコメントなどで、市民の皆さんのご意見を伺っておりますので、その辺をもう少しきちんとやっていくことが必要だと思っています。

（参加者）

安国寺公園の隣に資源ごみの集積所があります。そこに私は1日5、6時間くらいボランティアとして関わっています。缶やペットボトル、紙類などがあるのですが、この夏の暑さのせいでペットボトルはひどい状態です。集積所をもう一つどこかに作れないでしょうか。

（市長）

安国寺公園の隣の集積場の問題は、私も承知しています。高田の大手町にも一つありますが、市として考えておりますのは、ああいう集積場はむしろない方がいいのではないかと検討しています。きれいに保つのは難しいですし、ご意見のような問題が生じているとも聞いています。新しく作ることが解決になるのかは疑問です。必要性はあると考えられるものの、むしろそういう集積所はなくしていてもいいのではないかと感じます。

（参加者）

予算や土地がないといった理由でしょうか。

（市長）

そういう意味ではありません。そもそも集積所というシステム自体が、もうそぐわないのではないかということです。

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

（参加者）

各町内で資源ごみのかご出しをやめたところもたくさんあります。そうすると、その人たちは全部安国寺の集積所に持ってくるわけです。この間は、高田や牧区から来ている人がいました。商売をしている人が軽トラックにダンボールを積んで大量に持ってきているケースもあります。以前も市に聞いたことがあるのですが、予算がないとか土地がないといった理由ばかり言われました。何もする予定はないのですか。

（市長）

どういうシステムがいいのか、まさに検討しているところです。

（総務部長）

他の市では曜日や時間を限定しているところもありますが、当市の資源物常時回収ステーションは非常に使い勝手が良く、基本的にいつでも出せるようにしています。なぜ資源物常時回収ステーションを作ったかという、リサイクルの促進を目的に作りました。資源を大事にもらい、回収してリサイクルすることで環境に優しい取組を進めるためです。ところが、あまりに自由に出せるためなのか、資源物常時回収ステーション利用のルールを守っていただけないことや、資源物常時回収ステーションがあるためなのか、町内会の集積所のルールが徹底されないといった問題が発生しています。特に今は生活様式が非常に多様化しており、たくさんの人が資源物常時回収ステーションに来ることで、その場所の環境を悪化させている状況です。これについては、例えば町内会での回収のルールを守って、町内会の集積所に出していただくよう見直すことも一案だと考えています。資源物常時回収ステーションをなくす、または減らすことを決定したわけではありませんが、在り方は検討していく必要があると思います。ご意見は担当課にしっかりと伝えて、市民にとって一番いい形を考えさせていただきたいと思います。

（参加者）

8月に入り、日本政策金融公庫と上越市主催により「上越未来探求プロジェクト」という企画が実施されました。自分たちで地域の課題を解決するような企画や、ビジネスプログラムを立てるという内容です。そこに参加していた生徒が、昨日と今日、こどもの家で活動しており、子どもたちに身近な金融について遊びながら教えるなど、具体的な成果につながっています。要望としては、市を挙げて高校の探求活動に積極的に支援をしていただきたいです。高校の探究活動は全国的にも力を入れている取組です。探究活動、総合的な探究の時間というのは、学んできた様々な知識を総合して具体的な活動につなげる時間です。

市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

糸魚川市では高校魅力化コーディネーターを採用し、3校でさまざまな活動を行っています。妙高市では6つの大学と連携し、新井高校を中心に地域の多様な活動に取り組んでいます。

一方、上越市はそのような取組が少ない状況です。ついては、地域の企業や団体、あるいは首都圏の大学と提携して、高校生が探求活動に本格的に取り組める環境を整備していただきたいです。上越市においては普通科のほかに農業、工業、商業など多様な学科がありますし、通信制高校もいくつかあります。日本政策金融公庫だけに頼らず、年間を通じて探究活動の支援に市としても全力で取り組んでいただきたいと思います。地元で就職する高校生もいますし、進学して上越市を離れる生徒もいますが、高校のうちに地域の課題や魅力を把握したうえで活躍してほしいので、ぜひお願いいたします。なお、日本政策金融公庫は今回、中学生、高校生、大学生、専門学校生と枠を広げて参加者を募集しておりました。

（参加者）

探究活動は、小学校や中学校までは地域の学びや地域の課題を自分たちで検討して発表する活動として総合学習の中で行われています。我々も地域の人間としてそこにに関わり、関係者をつないだり、我々が行っている事業に参加してもらったりしていますが、高校になるとそれが完全に途絶えます。地域の人たちとのつながりが非常に少なく、希薄になります。企業誘致を進めるだけでなく、自らの地域で自己実現を図るためにイノベーションや起業に挑戦する精神を持った子どもたちを育成することが重要です。首都圏へ進学した場合でも、将来は上越市に戻って地域に貢献したいという意識を持てるよう、特に中学・高校期において地域への関心や愛着を育むプログラムが必要だと思います。そういう意味では、多様な学びの一つでもありますし、アントレプレナーシップ教育のようなものを、学校教育の地域学習の中でも進めていただければありがたいと思います。

（市長）

若い人たちの活動は私も基本的にサポートしたいと思います。高校生や小中学生を含め、居場所という話では、関根学園高校が非常に熱心に取り組んでおられます。サードプレイスと呼ばれる場所で、関根学園高校の生徒に限らず、放課後に多くの高校生が集まり、様々な話ができる場を作るということで現在も活動されています。市もそれをサポートしていきたいと思います。それから、上越への愛着という点では、いわゆるインターンシップの制度が進められています。商工会議所等と一緒に、地元にとりだけ魅力のある企業があるかを中学生にも知ってもらうための企業紹介も拡大してきていると思います。起業についても必要な取組だと思うので、教育委員会と相談して議論していきたいと思っています。

余談になりますが、佐渡汽船ターミナルにライトシップ高等学院があり、非常にユニークな取組をされています。通信制で、週に3日ほど地元の企業でアルバイトという形で報酬を

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」
【北部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

もらいながら実務を勉強して、週に1日登校して科目を学ぶということです。まさにドイツのデュアルシステムを採用しているわけですが、例えばそんなふうに中学生や高校生の頃から地場の企業や職場を知ってもらう機会を増やすことは大事だと考えています。今行っている「スマイルミーティング」は年代を限定しておりませんが、次のラウンドは若い人から意見を聞く機会も設けたいと考えております。

（参加者）

私は中途全盲です。私は2015年から福祉交流プラザで、視覚障害のある人もない人も誰でも自由に参加できる集いを開いています。2023年に福祉課に相談してイベントを開催したところ、オーレンプラザの会場の定員70人に対して90人が集まりました。参加人数も増え、若い人も増えました。来年は、東京の眼科で活躍している女性と、音大出身のバイオリン演奏者の2人来ていただいて、視覚障害者の女子会をやってもらう計画です。問題は会場です。イベントを開催する力がありますが、会場の確保だけが最近とても困難になってきております。オーレンプラザを借りたいということではありません。2025年の時も福祉交流プラザの第7会議室を会場にしたところ、40人が集まりました。来年もそのくらいの規模で行いたいと思っています。毎月の集いは自分で会場を探すので、2年に1回のイベントだけでも市に会場の先行予約について協力いただき、若い視覚障害者も参加できるイベントを開きたいと考えています。力を貸していただけると助かります。

（市長）

もちろん協力しますので、相談してください。

※このほか、当日会場でお預かりしました意見や提案につきましては、担当課に共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。